

2022年 新春対談

昨年を振り返って

— 昨年は、昨年発生した新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた一年であったと思います。改めて、昨年2021年1年間の振り返りをお聞かせください。

長谷川 まずは、コロナ禍の非常に厳しい状況が約2年続く中日々業務に精励いただいている組合員の皆さんに、改めて感謝を申し上げます。

会社として、現下の状況に対応していくための4つの基本方針を掲げ、お客様・社員の感染防止を図り、安全第一を旨として使命を果たしてきました。

昨年は、「JR西日本グループ中期経営計画2022見直し(以下、「中計見直し」)に掲げる「変革・復興期」の2年目であり、グループ一丸となって、変化対応力の向上と事業構造改革の取り組みを推進すべく、スタートしました。

緊急事態宣言の長期化により、引き続き厳しい経営環境での事業運営となりました。組合員の皆さんも、生活に大きな影響が生じ、不安を感じられている中、懸命に努力いただいた結果、グループ全体の最優先事項である鉄道の安全性の向上に全力で取り組むとともに、各事業において取り組みを進めることができた1年だったと思います。

西日本旅客鉄道株式会社
代表取締役社長 長谷川 一明
西日本旅客鉄道労働組合
中央執行委員長 上村 良成



9月には、厳しい経営環境が続く中ではありますが、当社グループの中長期的な成長に向けては、早期に財務体質の改善を図ることが必要と考え、公募増資を決定し、当社の未来に期待いただいている株主の皆さんから多くの資金を提供いただきました。

また、観光需要促進やまちづくりの推進などの地域共生の深耕や、社会行動変容に対応したライフスタイルの提案など、新たな価値創造、WELL-BEINGを基軸としたデジタル戦略を進めてきました。

緊急事態宣言が全面解除されて以降、少しずつ利用が回復しています。新型コロナウイルスの脅威が消え去ったわけではありません。コロナ禍が収束しても以前のご利用水準に戻ることがないとの覚悟のもと、社会行動変容に応じたサービス提供や構造改革に引き続き取り組んでまいります。

「新しい生活様式」が定着する中で、JR西日本においても、構造改革や列車ダイヤの削減、大幅なコスト削減施策等を実施し、今年度は通期の黒字化を目指してまいりましたが、移動自粛の中

き取り組んでいく必要があり、今年こそは、何としてもこの苦しい状況乗り越えたいと考えています。

上村 この1年は、私たちの想定を超えるコロナ禍が長期化する中、まさに経験したことのない苦渋の選択を迫られた1年であり、組合員にとって、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が繰り返され、一向にご利用が回復せず、将来不安が募る1年だったのではないのでしょうか。

こういう時だからこそ、組合員に寄り添うことが大事だと思いますし、これだけ不安が大きくなると、どうしても悪いことばかり考えることになるので、寄り添い方を考えさせられる1年だったと思います。

「新しい生活様式」が定着する中で、JR西日本においても、構造改革や列車ダイヤの削減、大幅なコスト削減施策等を実施し、今年度は通期の黒字化を目指してまいりましたが、移動自粛の中

き取り組んでいく必要があり、今年こそは、何としてもこの苦しい状況乗り越えたいと考えています。

安全について

— 労使共通の最重要課題である安全の確立に向けての取り組みは、「コロナ禍ではあるものの決して歩みを止めることはできません。来年度は「JR西日本グループ安全考画計画2022」の最終年度であり、この間の振り返りや次期計画に向けてのお考えをお聞かせください。

長谷川 グループ全体の最重要課題である安全の取り組みについては、「JR西日本グループ安全考画計画2022」の最終年度であり、この間の振り返りや次期計画に向けてのお考えをお聞かせください。

持って仕事に取り組んでいただき、感謝しています。

いかなる時も「安全第一」を掲げており、資金事情を厳しくなってきたにもかかわらず、安全投資は妥協せずに行っていました。また、安全性向上のための技術開発や、社員一人ひとりの安全意識をより高めるための取り組みを進めており、ハードソフト両面設備の力を高め、安全性をより高めていきたいと思います。

とりわけ取り組みの原点となる、福知山線列車事故の重い反省と教訓については、確実に継承し、将来にわたり安全な鉄道を実現していかなければならないとの強い思いのもと、「安全の実現に欠かせない視点」を策定し、全社員への教育を通じて浸透を図っています。

さらに、これまで、「一人ひとりの安全考画の実践」に向けて取り組みを行ってきましたが、「安全が確認できないときは『迷わず列車を止める』『迷わず作業を止める』」ことが継続的に実践されているなど、判断が必要となる場面でも安全最優先の考画に結び付けることが出来てきているように思います。

ひょっとして自分の判断が間違っているかもしれないとか、迷惑をかけるのではないかと、心の底には、いろんな迷いがあると思いますが、現場では、皆さん方が社長に成り代って、躊躇なくやっていた方がいいと思います。

今後より一層、具体的な考画に繋げることが出来るよう、仕組みの整備等に取り組んでいきたいと考えています。

上村 世界一安全な鉄道会社にするべく、業務に動いている組合員は、このコロナ禍においても、大きな事故なく安全に運行してきました。このことについては、胸を張ってもいいのではないのでしょうか。

また、福知山線列車事故以降の労使での様々な取り組みにより、運転事故や危険事象などは減少し、安全性は確実に高まっています。「ヒューマンエラー非懲戒」や「アサーション(確認ですが)確認ありがどう」の取り組みについても、グループ会社も広がりを見せており、「報告しやすい職場風土」が進んでいることは評価しています。

例えば、電気クックでは、列車を危険と想定して止めたケースが社内誌で紹介されるような取り組みをされており、工務系

手帳」を策定しました。新しい内容を記載している訳ではありませんが、グループの仲間を声を含め、これまでの振り返りや、心げなことをまとめたものであり、JR西日本の作業の多くを担うグループ会社や協力会社での活用も期待しています。

現在、事故後入社者が半数を超える中、風化防止と教訓化の取り組みを労使ともに進めています。その継続はもろもろの様々な機会を通じ、事故を経験している世代が自分の言葉で事故を語り継ぐことが重要です。JR西労組としても、ユニオンカレッジなどで、遺族様担当OBの方々に協力をお願いし、事故と向き合い、決して忘れない取り組みを進めていく所存です。

コロナ禍における JR西日本の対応について

— 「コロナ禍の急激なご利用減に対し、2020年10月には中計を見直し、組織構造改革やコスト削減、生産性向上などの取り組みを行ってきました。また、社員の雇用とサプライチェーンを守るため、会社初となる「時帰休や部外出等の実施、昨年の冬のボーナスの見直しや夏のボーナスのみの回答とする」など、労使とも苦渋の決断をされました。これらの対応について社長委員長それぞれの思いをお聞かせください。

上村 組合員の雇用と生活賃金を守ることを大前提に、「昨年の冬季賞与の1.5箇月分の見直しから、21春闘時のベア要求断念、そして夏季賞与1.3箇月プラス一時金3万円と苦渋の決断を重ねてきました。本部として、集会や支部・分会代表者会議などを通じて組合員の切実な声を頂き、会社とギリギリの交渉を繰り返して、判断してきました。結果として、大きな不安と不満を抱える中、組合員の皆さんに一定の理解をいただいたことに感謝します。

さらには、2021年の冬季賞与についても、かつて経験したことのない厳しい交渉となりました。JR西労組は、①組合員は会社の経営回復を信じ、自身の生活においても自粛や制限を続ける中、日々の安全・安定輸送に全力を尽くしていること、②一時帰休、そしてグループ外出で慣れない分野、業種で奮闘していること、③雇用調整助成金

本人の成長のみならず、今後のJR西日本の事業運営に活かしてもらうことを期待しています。

長谷川 現在、構造改革と財務基盤を立て直しによる経営の強靱化に取り組んでおり、この間、皆さんに協力をいただきながら、列車ダイヤの見直しや一時帰休の実施賞与の引き下げ、さらには雇用を守るためのグループ外企業への出向など、痛みを伴う取り組みを進めてきました。

また、今年度の期末手当については、これまで年間臨給方式としていたものが、コロナ禍の影響に伴う経営状況は不透明であり、2020年度は年末手当の見直しをせざるを得なくなった苦渋の経験も踏まえ、夏季手当のみの回答としました。年末手当については、年度初想定よりも一層厳しい経営状況を皆さんと共有したうえで、これまでの取り組みに報いるとともに、構造改革をはじめとする「変革・復興」に向けた取り組みを皆さんと共に成し遂げていくことを期待して、精一杯の回答として1.25箇月としました。加えて、会社の業績向上に不可欠である社員一人ひとりの成長や能力の伸長を期待して、一時金を支給することとしました。改めて、皆さんには、この厳しい1年間を社会行動変容への対応やコスト削減など、変革・復興に向けた取り組みに一丸となって挑戦していただいたことに感謝申し上げます。

また、JR西労組から多くの組合員がグループ外に出向しており、介護施設で高齢者のお世話や、部品メーカーの過酷な三交代制勤務など、想像以上に苦勞している組合員がいます。会社存続のために自ら手を挙げて出向した組合員に対し、フォローはもろもろのこと、正しい評価と復帰後の運用が重要です。一方で、これまで知らなかった他業種、他企業の業務を知ることができたこと、有意義な時間を過ごせている、刺激的な経験が出来ているなどの声も聞きま

ポストコロナを見据えた 社会環境への対応

— 社会環境も大きく変わり、世間ではテレワークの推進や在宅での勤務、出張抑制が一般化しつつあります。一方で緊急事態宣言が解除され、行楽地は賑わい

を取り戻しつつあります。社会行動変容に応じた鉄道のあり方等について何かお考えはありますか。

長谷川 お客様の社会行動変容が、